グローバル化に対応した施設整備

基盤教育拠点の形成とグローバル空間の創出

建物外観

基本情報

大学名：山形大学
建物名：基盤教育１号館
工期：平成22年8月～平成25年2月
構造・階数：RC・地上５階
延床面積：１１，５４０㎡

ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｶﾌｪ

整備の方向性

○学生サービス機能と基盤教育の充実化

・山形大学では、「何よりも学生を大切にして、学生が主役となる大学創りをする」、「教育、特に教養教育を充実させる」を大学経営の基本方針として重要な整備と位置づけ、耐震性能の改善にあわせ基盤教育拠点の形成等の機能改善を図る施設整備を行った。

・本建物は、基盤教育エリアのなかでも中核的な施設で、学生センター、コミュニケーションスペース、能動的学修スペース、講義スペース、教員スペース、災害時対応スペースなどで構成されている。

・学生サービス機能と基盤教育を活性化させるキーポイントとして、学生センターとコミュニケーションスペースを隣接配置させたことにより、学生が行き交う活気あふれる空間を作り上げることができた。

計画・設計上のポイント

○機能の一元集約化による、基盤教育拠点の形成とグローバル空間の創出

・本改修で基盤教育の拠点建物を整備するにあたり、教育研究空間の最適化を意識した整備はもとより、小白川地区3学部の共通事務・学生サービス機能の一元集約化と講義室エリアのスペース整理により捻出されたスペースを、拠点形成に必要な教員スペース、学生支援スペースに当て整備した。

・これまで、離れて独立していた国際交流スペースと学生多目的室をさらにフレキシブルな空間利用を目指し、一体化することにより多様な人々との交流が促進されるグローバルな最適空間を整備できた。

計画・設計上のポイント

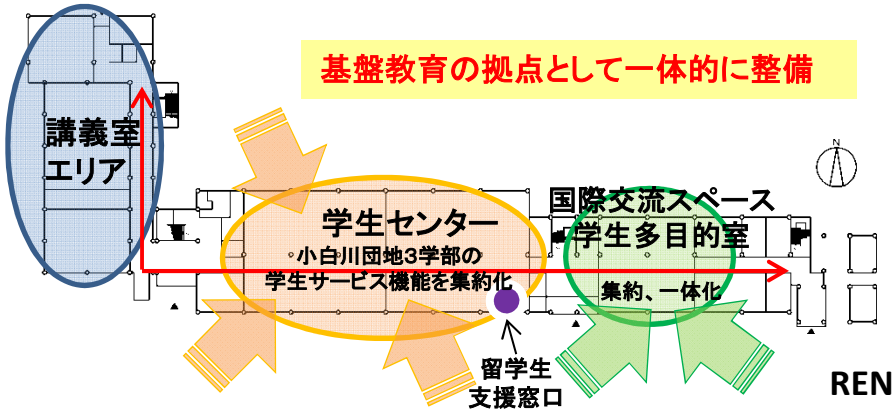
Before

・間仕切りの多い、室利用が限定された閉鎖的な空間

・学生サービス機能が分散配置のため利便性が悪い

・独立に配置された国際交流スペースや学生多目的室が、様々なニーズに対応できず非効率的な空間

・学生及び留学生相談窓口が分かりにくい



RENOVATION PLAN

After

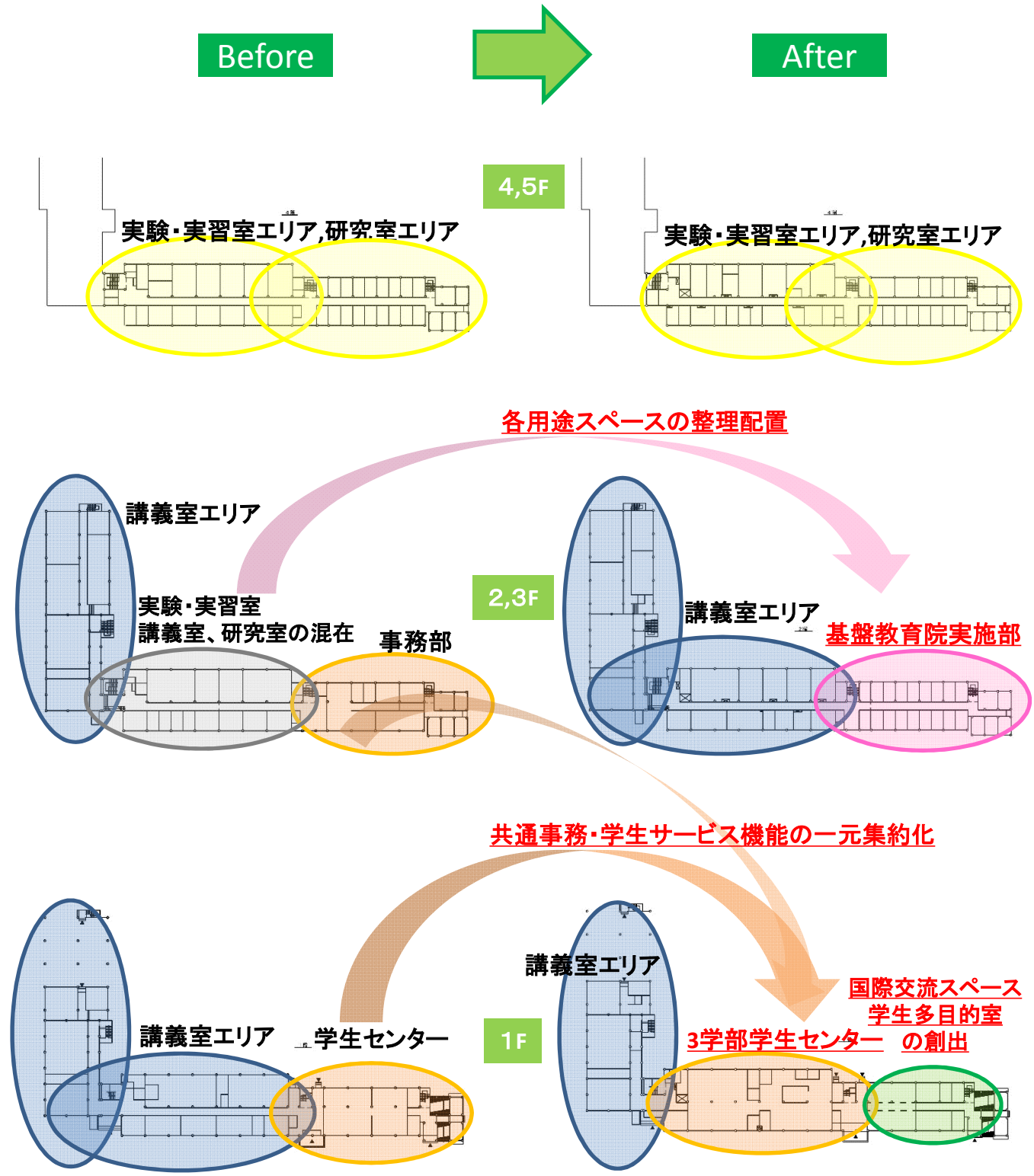
■小白川団地　3学部の学生センター
・小白川3学部の学生サービス機能の集約化
・建物の中央に配置し学生センターの通り抜けを可能とした配置計画
・学生及び留学生の相談窓口の明確化

分かりやすく利便性のある、学生サービス機能の充実

■フレキシブルな大空間
（国際交流スペース・学生多目的室）
・国際交流スペースと学生多目的室の一体化
・コミュニケーションスペースと学生センターの隣接配置
・多様なコミュニティー活動に対応できる効率的な空間

大学の多面的なグローバル活動の推進

計画プラン


Before
After
4,5F
実験・実習室エリア,研究室エリア
実験・実習室エリア,研究室エリア
各用途スペースの整理配置
講義室エリア
実験・実習室
講義室、研究室の混在
事務部
2,3F
講義室エリア
基盤教育院実施部
共通事務・学生サービス機能の一元集約化
講義室エリア
学生センター
1F
講義室エリア
国際交流スペース
学生多目的室
3学部学生センター
の創出

施設整備の効果

○基盤教育の一層の拡充

・「地域を知り、地域の課題を考える山形学・フィールドワーク」、「自分を見つめ直し、社会と向き合うキャリアガイダンス」などの共通的かつ基盤的な教育が一層充実されたことにより、本学における基盤教育の基本理念で謳うような「人間力」「学士力」が養われた優秀な人材が育成され、より多く輩出される。

○コミュニケーションによる教育研究機能の促進

・国際交流が自然な形で行われるようになったり、ワイワイとしたにぎやかな良い雰囲気がコミュニケーションスペースに足を向かわせ、教育研究など学びへの志向性を育む様々な機会が生み出されるようになった。

○グローバル化の推進

・写真のようなイベント（発表、交流イベント等）が頻繁に行われ、継続的な異文化交流が深まることによって、国際コミュニケーション能力が向上され、教育研究等を含めグローバルな視点を養える。また、留学生の地域参画による交流活動を通して地域の方々に国際理解について深められ、山形県全体の国際化に貢献。（自治体の要請によるｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｸｯｷﾝｸﾞ、民族演奏会交流、地域の祭事参加等）

○学生サービスの充実

・学生へのアンケート（学生生活実態調査）によると、留学生が学生センター窓口を利用したことがあるという回答が30%（改修前）から50%（改修後）と利用率が高くなった。理由としては、窓口が分かりやすくなったことや、スペース機能の整理配置により利便性が向上したことが挙げられ、留学生が学生センター窓口を利用しやすくなったという効果がみられる。

改修後

グローバルカフェ

改修後

日本文化授業

国際色豊かな研究者が集い交流するコミュニケーションの場

コミュニケーションルーム

基本情報

大学名：東京工業大学
建物名：石川台８号館（ELSI-2）
工期：平成25年6月～平成25年10月
構造・階数：RC・地上４階
延床面積：２，９９８㎡
（改修面積：１，７５９㎡）（1~3F）

和室

整備の方向性

○「地球生命研究所」の研究活動拠点としての整備
・平成24年度文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択された「地球生命研究所（ELSI)」の研究活動拠点として、既存建物の１～３階を、コモンスペースや研究スペースとして改修整備。

○異分野の研究者が集うコミュニケーションの場を提供
・１階部分は、外国人研究者を含む異分野の研究者が、日常的にコミュニケーションを図ることが可能な交流スペース（コミュニケーションルーム、セミナールーム、会議室、和室）にコンバージョン。

○研究分野間の壁を排除した自由な研究環境を提供
・２階以上のフロアには、相部屋の教員室及び海外からのビジター室を配置。また、若手研究者や学生のスペースについては大部屋として整備し、研究者間の交流を促進。

計画・設計上のポイント

・異分野の研究者が、一つの場所に集まって活発な議論をしながら研究を進めていけるよう、1階の大部分をコミュニティルームを中心としたオープンスペースとして計画した。地球生命研究所は「生命の起源と進化を地球誕生直後の環境やその後の変動と関連づけて明らかにする」ことを目指していることから、「大陸」をイメージしたテーブルやソファーなど、シンボリックな造作家具を設置している。

・また、外国人研究者の利用が多いため、日本の風情を学んでもらうという意図から、掘り炬燵式の和室を設けるなど、研究者同士が、意見交換や気分転換のために研究室と行き来したくなる、快適な空間となることを目指した。

Before

After

研究者の自由な発想を促し、多様な組み合わせが可能な、大陸をイメージした造作家具を設置
（左奥はセミナールーム）

活発な議論の最中に「ひらめき」をその場で書き留められるよう、壁全面に大黒板を設置

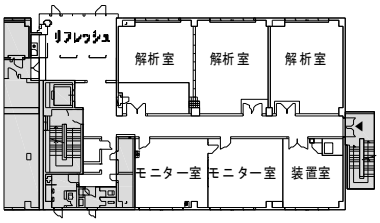
コミュニケーションルームとの間仕切りを全面ガラスとすることで、開放感を確保した「見せる」スペースとして整備

外国人研究者に日本の風情を紹介し、異国間交流を促すスペースとして整備

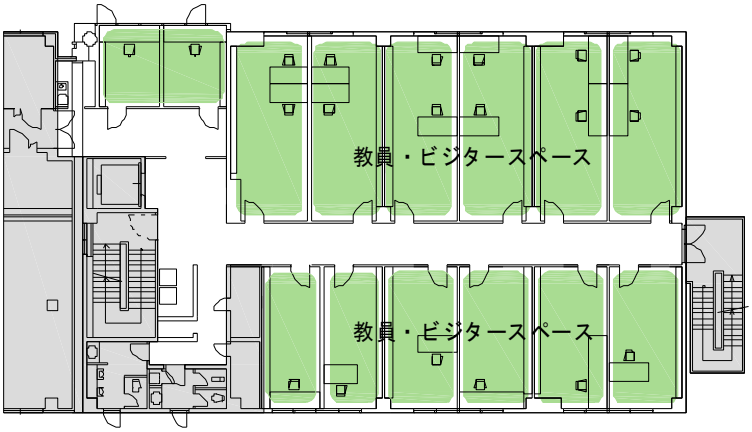
Before

After

3階平面図

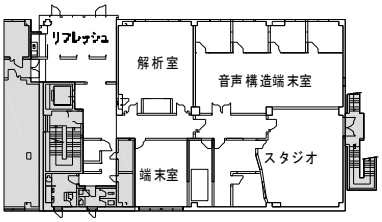


改修前

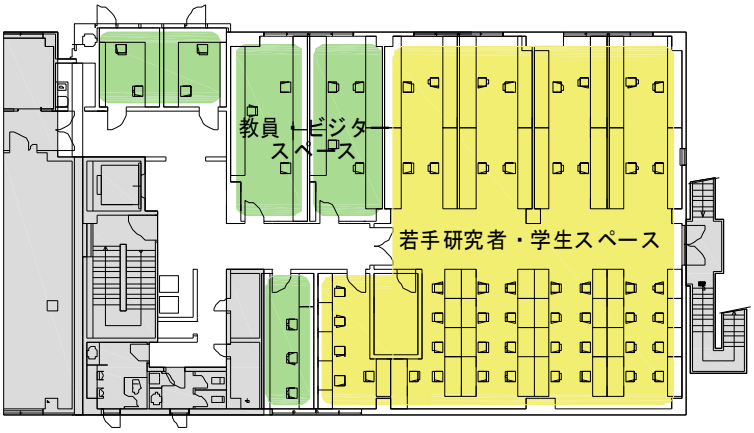


改修後

2階平面図

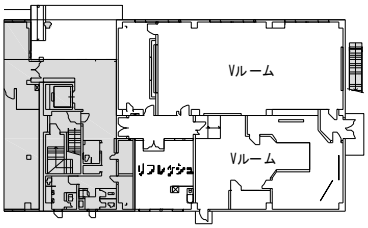


改修前

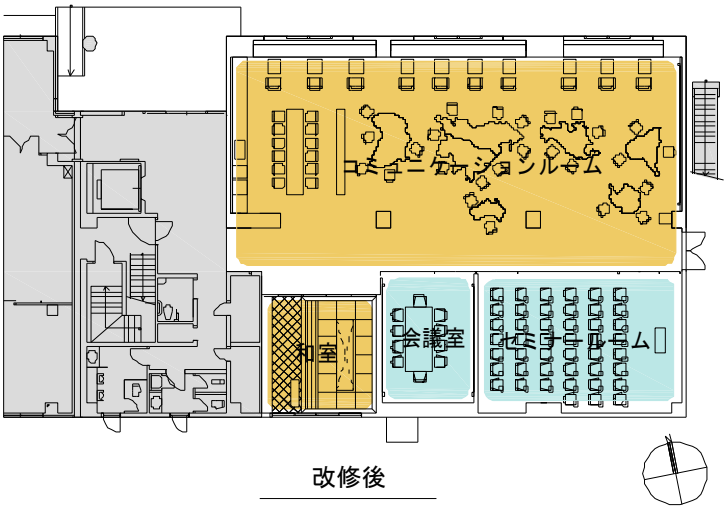


改修後

1階平面図



改修前



改修後

施設整備の効果

○地球生命研究所(ELSI：Earth-Life Science Institute)に関係する研究者及び海外招聘者を対象とした研究フォーラム、セミナー会場としての活用(平成26年度　計39回開催)

・ELSIフォーラム　　ELSIの研究関連テーマについてのパネルディスカッション
・ELSIアッセンブリー　ELSIメンバーによる研究発表とディスカッション
・ELSIセミナー　　外部ゲストを招いた研究発表とディスカッション
・ワークショップ　　関係するメンバーがオーガナイズするワークショップ
・サマースクール　　国内外からの研修を目的としたサマースクール

ELSIセミナー

ディスカッションの様子

○日常的なコミュニケーション促進のため、以下の催しを定期的に開催

・ランチトーク（週2回）　昼食時にELSIメンバーが研究内容やトピックを主に異分野の研究者に紹介
・All Meeting（月１回）　昼食時にELSI関係者全員を対象とした月例全体ミーティングを開催
（全構成員が集まり、所長から研究所や大学の状況を英語で説明）
・コーヒーブレイク（毎日）15時に研究者同士が集まって研究討論をしながらのコーヒーブレイク
・IZAKAYA ELSI（週１回）研究者及び事務員が親睦を深める集まり
（各国のおつまみをテーマにした会や女性研究者の会なども開催）
・国際シンポジウムにおける懇親会（100人程度、外国人が半数以上）
・その他、和室や会議室では、様々なランチ会や外国人向けの日本語教室が開催されている。

キッチンでのコーヒーブレイク

和室でのコーヒーブレイク

○利用者の声

・小さなリフレッシュルームが点在しているより、本施設のように広々としたキッチンを備えた大きなコミュニケーションスペースがある方が良い。
・ELSI構成員以外からも、ゼミの発表の場などとして活用させてほしいとの要望がある。

学生，教職員が共同で運営するコミュニケーション・スペース

デザイン遺産の継承

基本情報

大学名：九州工業大学
建物名：鳳龍（ほうりゅう）会館
工期：平成19年9月～平成20年3月
構造・階数：RC・地上１階
延床面積：４７６㎡

ランゲッジ・ラウンジ

整備の方向性

〇世界で活躍し，世界に通用する高度な技術者を養成する。
・開学以来「技術に堪能(かんのう)なる士君子」の養成を基本理念として，100年余にわたって，世界を先導する高度技術者を輩出するとともに，新しい技術を創出する研究開発を通して，わが国及び世界の産業発展に貢献してきた。

〇外国語のみを許可した空間を整備し，学生の主体的行動力，コミュニケーション力を向上させる。
・TOEICによる英語能力向上も大事であるが，国際的な場面で意見を戦わせることができるディベート力を身につけることも大事であることから，外国人との交流などを通じて英語など語学のスキルアップにつなげる。

〇学長のリーダーシップ
・教育研究の機能強化，グローバル化への対応，地域社会や産業界との連携に向けた施設整備を学長のリーダーシップのもと，計画的に推進している。

計画・設計上のポイント

〇デザイン遺産を継承
・ランゲッジ・ラウンジは，鳳龍会館を改修して設けられた国際交流と外国語によるコミュニケーション・スペースである。鳳龍会館は，１９５５年の九州工業大学の創立５０周年記念として建てられた，講堂と対になる建物（旧事務棟）であり，設計は，日本を代表する建築家「清家清」氏によるものである。
・今回の改修整備では，創建当時のコンセプトを再現し，戸畑キャンパスの基本計画に尽力された辰野金吾氏や清家清氏の思想やデザイン遺産の継承を図り，明治専門学校からの歴史を意識しつつ，未来へつながる施設再生を目指した。
・正門を入ってすぐ正面の，大学の歴史を感じるシンボルエリアの森に，またひとつ新たな活気に満ちた空間が整備された。

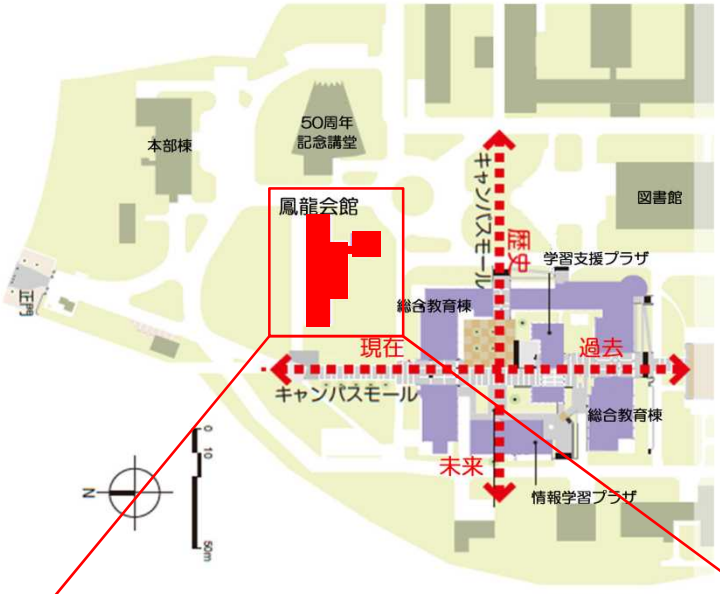
Before

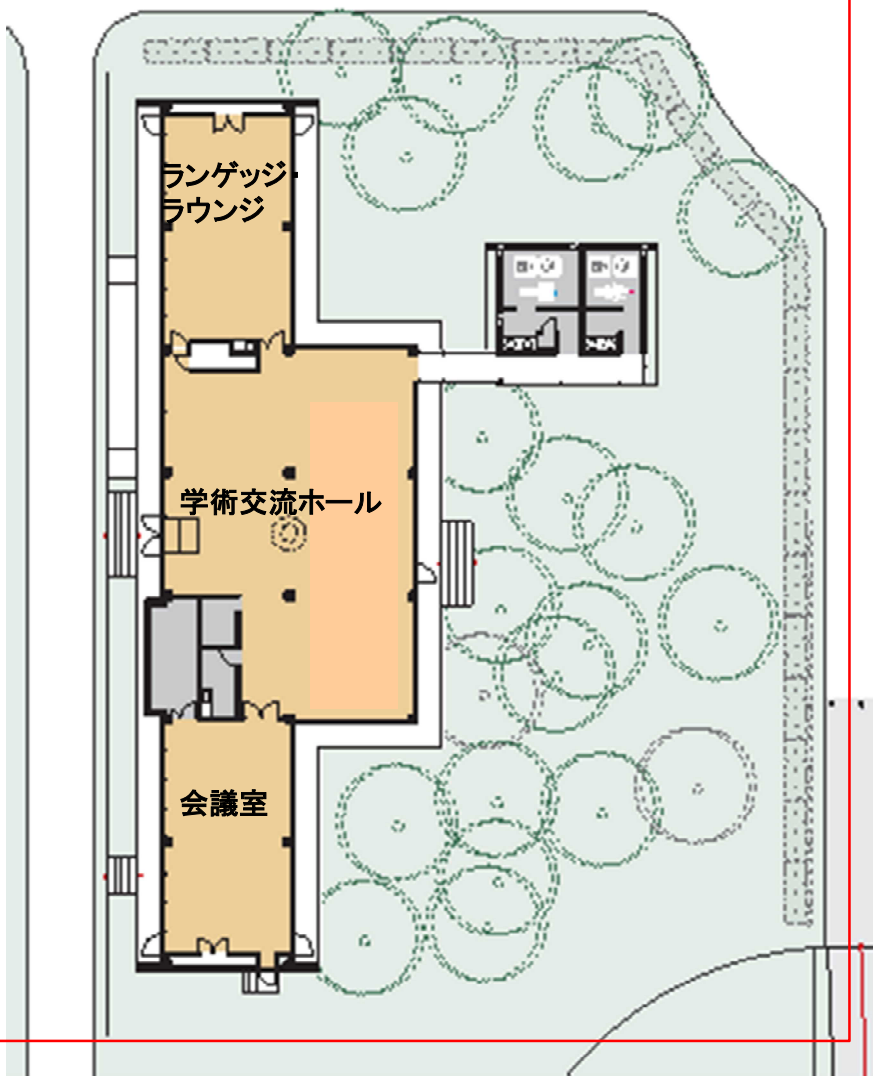
After

建物　外観

学術交流ホール

ランゲッジ・ラウンジ


本部棟
50周年
記念講堂
鳳龍会館
図書館
キャンパスモール
学習支援プラザ
総合教育棟
現在
過去
キャンパスモール
総合教育棟
未来
情報学習プラザ
N
0
10
50m


ランゲッジ・
ラウンジ
学術交流ホール
会議室

施設整備の効果

○国際的なコミュニケーション力の向上

ランゲッジ・ラウンジは，外国語のみが許可された学生主体の空間であり，海外派遣プログラムなどを支援する場，学生成果を披露できる場でもある。毎日，学生や留学生が自由に出入りし，にぎわいを見せており，国際的なコミュニケーション力の向上に寄与している。

具体的には，学生の海外派遣数の増加（H24年度はH22年度に比べて29人増），留学生数の増（H25年度はH23年度に比べて13人増），TOEIC得点の上昇（入学時より平均109点上昇）などの効果が見られている。

○学生，留学生，教職員が共同で運営

ランゲッジ・ラウンジの運営に当たっては，工学部ランゲッジ・ラウンジ運営要領を制定し，(1)運営に関する基本方針に関すること，(2)予算概算の基本方針に関すること，(3)年間スケジュール及びイベントに関することなどを，工学部ランゲッジ・ラウンジ運営会議で審議している。

この運営会議には，国際交流サークル代表者（工学部生）も委員として出席し，学生，留学生の意見をくみ上げる仕組みとなっている。

○学生，留学生，教職員が共同で運営

本施設は，施設内での活動が外部からよく見えるようなガラス張りの施設であり，また建物のデザインに合わせたトイレを整備するなど，利用者の誰もが安心・安全・快適に利用できる施設となっている。

帰国報告会

イングリッシュパーティ

色彩デザインにこだわった学生宿舎のリニューアル

色彩計画を取り入れた建物外観

基本情報

大学名：筑波大学
建物名：一の矢学生宿舎、平砂学生宿舎
追越学生宿舎、春日学生宿舎
（全26棟）
工期：平成21年10月～平成26年3月
構造・階数：RC・地上１～５階
延床面積：19,740㎡
（一の矢学生宿舎・全14棟）
16,378㎡
（平砂学生宿舎・全6棟）
11,369㎡
（追越学生宿舎・全4棟）
2,906㎡
（春日学生宿舎・全2棟）

整備の方向性

○老朽化した宿舎のリニューアル

本学では、学生に良好な勉学の環境を提供し、自律的な市民生活を体験させることを目的として、計60棟の学生宿舎を設置しているが、本整備にあたっては「本学が目指す学生支援の方向」及び「10年後の学生宿舎ニーズ」を踏まえ、10年間で最低限4,900室程度の学生宿舎を確保することを目標に、平成21年度から5年間を学生宿舎改修の「集中期間」と位置づけ、改善されていない建物のうち26棟（1,590室）の改修に着手した。

留学生の生活及び大学院博士後期課程学生への支援については大学として優先的に対処する必要があり、とりわけ、将来の留学生のニーズにも十分応えられるようにすることは、本学の特色を活かすためにも重要であるため、改修の際に留学生向けに世帯用居室を設けるなど将来的なニーズを踏まえた改善を図った。

計画・設計上のポイント

○外観デザインのこだわり

本計画にあたって、平成17年度から「学生宿舎改善計画WG」を設置し、学生宿舎の改修及び住居環境の改善を目指して鋭意検討が重ねられてきた。

平成20年9月から本格的な検討を開始し、「本学が目指す学生支援の方向（※）」に基づき、学生支援の観点から想定される学生宿舎のニーズを踏まえた5年間の改善計画を同20年中に策定した。

この計画は主に本学学生部・国際部・施設部が連携、設計には芸術系教員が参加し、外観に色彩デザインを取り入れた。芸術系教員の色彩計画により宿舎ごとにテーマを持たせ、自然との調和やまちとしての賑わいを創出した。

Before

After

○老朽化した宿舎を一新

・建物内部の天井等のアスベストの除去を完了。

・居室の天井、壁は白を基調とし、床には木目調のシートを採用し明るい雰囲気となっている。

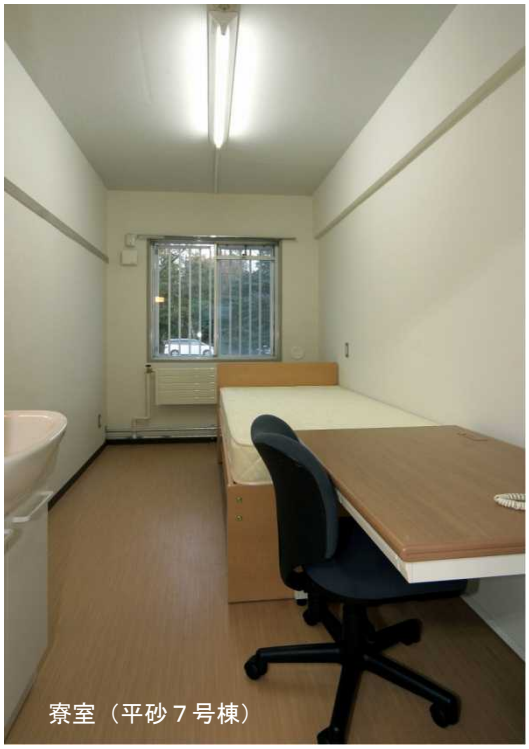
・リビングの補食室は清潔に保ちやすいよう壁にキッチンパネルを設置

・各フロアにシャワー室を設置。（平均して15人に１台程度）

・劣化した配管を更新し、共用トイレをすべて洋式化。

・各居室への供給電力容量をアップ。

共用部



寮室（平砂７号棟）

Before

※既存の寮室を一部屋シャワー室へ改修

After

補食室（平砂７号棟）

シャワー室（追越学生宿舎２３号棟）

施設整備の効果

○利用者の満足率の向上

平成24年度の学生生活実態調査によれば、改修等の居室・補食室・トイレ・洗濯室等についての不満足度は、未改修棟の半分以下となっており約８割の学生が「概ね満足している」との結果が得られている。また、宿舎ごとに各階の居室１～２部屋をコインシャワー室へ改修したことで、シャワーを利用しやすくなり満足度が大きく向上した。

○活気と賑わいを創出する外観デザイン

同一で単調になりがちな学生宿舎の建物群に対し、アクセント色を用いるなどして活気や賑わいを与えている。宿舎が立ち並ぶエリアや区域ごとに立地条件からテーマを持たせ、本学の特徴である豊かな自然と調和させることで、居住する学生だけでなく本学を来訪する学外者にも筑波大学のアクティブなイメージを形成する一因となっている。

○コミュニティの活性化

平成23年度から改修済みの宿舎を対象にコミュニティ組織を設け、各フロアにリーダーを配置した。多様化する学生が増加する中、居住者間のコミュニケーション不足による防犯対策や共同生活のマナー等がこれまで課題となってきた。宿舎の改修を機に、コミュニティを促進する新たな取り組みを始め、居住者同士が共同生活からお互いに協力しあう環境づくりが今後行われていく

自然との調和やまちとしての賑わいを創出

建物外観（春日１号棟）

建物外観（平砂６号棟）

建物外観（平砂１号棟）

学生寮（清明寮）の混住化整備

新築建物外観①

基本情報

大学名：大阪大学
建物名：清明寮
工期：平成24年9月～平成25年3月
構造・階数：RC・地上４階（既存）
S・地上１階（新営）
延床面積：３，９３５㎡（既存）
１５０㎡（新営）

新築建物外観②

○留学生受け入れに向けた住環境整備

本学は２２世紀において学術・研究がひときわ輝き、世界屈指の総合大学となることを目指した「大阪大学未来戦略（2012-2015）」を掲げており、その中で留学生数を倍増させたグローバルキャンパスを目指し、留学生受け入れに向けた住環境整備を実施している。

補助金による既存学生寮の耐震補強と合わせて、本学として初めて留学生と日本人学生の混住化対策事業として、既存棟の改修及びラウンジ棟の新築を自己資金により実施した。

グローバルビレッジ構想全体イメージ

計画・設計上のポイント

○教育研究空間の最適化

＜既存棟改修＞

・留学生の生活習慣へ対応のため、既存のトイレを和便器から洋便器に改修した。

・衛生面から補食室、洗濯機置き場の内装改修工事等を合わせて実施した。

＜新築＞

・既存の学生寮には学生の集うスペースが無かったため、留学生と日本人学生が集い、自然に交流が生まれることを意図して、新たにラウンジ棟を新築し、コミュニケーション・ラウンジ（約90㎡）設置した。

・既存棟には大浴場しかなく、留学生の生活習慣へ対応のため、新築したラウンジ棟内に個室シャワールーム（7室）を設置した。

○施設水準の向上

・省エネルギー推進のため、人感センサーを有する照明等を採用した。また、新築したラウンジ棟には、ペアガラスを採用した。

○設計プロセス・推進体制

・学生寮管理を担当するハウジング課と綿密な打合せを行い、設計を進めた。

既存棟改修

Before

改修前の和式便所

改修前の補食室

改修前の洗濯機置き場

After

改修後の洋式便所

改修後の補食室

改修後の洗濯機置き場

新築

コミュニケーション・ラウンジ

シャワー室7室

シャワー室内部

【日本人学生寮の混住化計画について】

◆整備方針

平成25年度に制定した大阪大学未来戦略では、総長のリーダーシップの下、地球規模での多様な人材により構成されるグローバルキャンパスの早期実現を目指している。

現在、本学では留学生寮が不足しており、その不足分を解消するため、既存の日本人学生寮3寮（494戸）において、各学生寮の約37%、合計184戸に留学生を入居させ、日本人学生との混住寮とすることとした。

本事業は、上記の日本人学生寮の混住化計画の一環であり、日本人学生を含む多国籍の学生間における交流機会の創出により国際化を推進し、国際的なリーダーとなるようなグローバルな人材の育成を図ることを目的とする。

◆既存学生寮の課題

・留学生は和式トイレ等に慣れておらず、洋式トイレへの改修が必要である。

・通常、入居者がエアコン等を設置するが、入居期間が1年間と短い留学生の費用負担の軽減のため、大学がエアコン等を備え付ける必要がある。

・施設が老朽化している。

・文化・宗教上の問題等があり、浴室（大浴場）の使用は留学生にとって困難であるため、個別利用ができるシャワー等の設置の必要がある。

・学生が集い・交流するスペースがない。

◆混住化整備イメージ

共用施設の整備

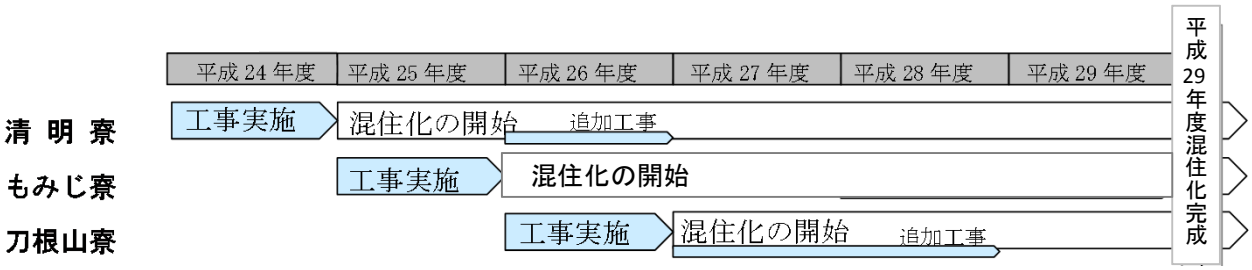
補食室の整備（イメージ）

外国人の生活習慣への対応

洋式便所への改修（イメージ）

シャワー室の整備（イメージ）

◆混住化年次計画



施設整備の効果

○施設・設備について

- 既存施設の改修により留学生に快適な生活を提供することができるようになった。平成27年度現在、172名の留学生が入居可能となっており、混住化が推進されている。

- 清明寮に新規整備したコミュニケーション・ラウンジは日本人学生・留学生ともに利用するシャワー室に隣接しているため、日常的な交流活動の活性化に貢献している。

○運営について

- 混住により、積極的な交流がなされており、日本人学生の語学力の向上および国際感覚が強化されている。また、留学生は早期に日本社会に順応できている。

- 日常的な挨拶や些細なトラブル解決等を通じて、文化の違いを理解する機会となっている。

○今後の課題について

- 留学生は客観的な目で寮・日本人学生をとらえており、そこから上がってくる意見等を参考に、混住寮の運営・整備に反映させていく必要がある。

- 掲示物等の多言語表記が不完全であり、今後対応予定。

- 混住化を完了しても留学生寮の必要戸数には達しておらず、今後整備する予定の「グローバルビレッジ」第Ⅰ期事業においても、混住型の学生寮を整備する予定である。混住化した日本人学生寮で新たに見つかった課題等については、この事業計画にも役立てているところである。